

ニホンザル追い上げ隊

代表者 水田 量太(理M1年)

構成員 辻 知香(農5年) 相本 実希(農3年) 東 加奈子(農3)

(1) プロジェクトの目的

現在、県内では、ニホンザルによる農作物被害が社会問題化し、被害対策が緊急の課題となっている。そこで、ニホンザルによる農作物被害を軽減させる方法の一つとして、ニホンザルを山に追い上げ、またニホンザルを誘引する原因となる収穫しない不要な果樹の収穫を行う。さらに、それらを通じて地元の方と交流することを目的とする。

(2) プロジェクト内容

花火や爆竹を用いて、ニホンザルの追い上げをニホンザルによる農作物被害の多い夏、冬(2008.6~8、2008.12~2009.1)を行う。さらにニホンザルを誘引する可能性の高い果樹類の収穫を行う。不要果樹類の収穫を夏、秋に行う。またゆずを収穫した際は、ゆずこしょうの調理を行う。

(3) 現在までの活動状況

ニホンザルの追い上げは、不定期で行っている。実際ニホンザルサルを追い上げてみると、なかなか一筋縄ではいかないなと感じた。なぜなら、仁保には、ニホンザルを追い上げるような奥山がないからだ。今まで、全国で行われてきたニホンザルの追い上げの大半は、かれらを追い上げられる奥山があり、そういう地域では、追い上げに成功している。つまり、奥山があれば、追い上げるとそこにサルが留まるので、その結果、里山に下りてこなくなり、サルによる農作物被害が軽減される。しかし仁保で、サルを追い上げると山を越えた反対側の集落にサルが移動してしまう。実際、サルを畑から追い上げて、一息ついていると、違う集落に現れるのだ。そこで、この点に関して改善を行った。まず同じように彼らを追い上げて反対側の集落に移動したら、そこでまた元の集落の方に追い上げたのだ。すると、最初にいた集落は、危険だと認識して、違う方向に移動するのではないかと思われるからだ。すると、思い通り、もといいた場所とは異なる方向へ彼らは動き始めた。が、その動き始めた方向が元々行こうと考えていた方向かもしれないし、偶然に思い通りになっただけかもしれない(実際2度しか成功してない)。さらに彼らの動きを完全にコントロールできたわけではないので、まだ『追い上げ』を成功したとはいえない。

また追い上げの際に用いる道具に関しては、住民の方や猿被害対策協議会に入手方法を伝え、実際に使用していただいている。

不要果樹の収穫は、何度か行った。その果樹の多さに驚いた。まだこれから、収穫を行おうと思っている。

プロジェクト進捗状況 (50) %

- ・ 実施済み事項
 - (1) 夏期の追い上げ
 - (2) 不要果樹の収穫
- ・ これからの予定
 - (1) 不要果樹の収穫
 - (2) 冬期の追い上げ

予算使用状況

300000円

(予算額 490000 円)